

国立大学図書館協会地区協会助成事業 実施報告書

地区名	東北地区（主担当大学：東北大学）
事業名	研修会「大学図書館カレントトピックス」
事業目的・趣旨	<p>近年、著作権は電子書籍への対応や社会状況の変化により、各大学で進めている学術情報の電子化や動画配信等、運用が難解な場面が多くなり慎重な対応が求められており、特に図書館業務やサービスへの確に活用することが求められている。</p> <p>また、和歌山大学では、図書館の本来の役割である蔵書収集、保存、研究者への学術情報の提供に加え、学生が集い、世界や和歌山県の豊かな地域特性とも連携していく場であるクロスカルセンター（Cross × Culture）を図書館新棟として完成させている。図書館の学修支援機能充実のため、その特徴や機能により新たな図書館の在り方の先進事例を学ぶ価値は大きい。</p> <p>この2つの観点を学ぶために企画した講演それぞれの最新事例を聞くことにより、正確な専門知識を学び、業務に応用できること、また、効果的な学習支援の実現と強化を目的とする。</p> <p>さらに、東北地区の大学図書館におけるラーニング・コモンズの取り組みについて、最近改修を行った弘前大学、福島大学、宮城教育大学、東北大学の4大学附属図書館から事例報告を行う。</p>
実施内容	<p>開催日時：平成 28 年 2 月 29 日（月） 13:00～:17:15 開催場所：宮城教育大学附属図書館 1 階 スパイラル・ラボ 参加者：54 名（主催者も含む）</p> <p>プログラム</p> <p>13:00-13:30 受付 13:30-13:40 開会 13:40-14:40 講演 1：「大学図書館と著作権」 講師：千葉大学アカデミック・リンク・センター副センター長 山中弘美 氏</p> <p>14:40-14:50 休憩</p> <p>14:50-15:50 講演 2：「和歌山大学の図書館改革と今後の展望」 講師：和歌山大学附属図書館長 渡部幹雄 氏</p> <p>15:50-16:00 休憩</p> <p>16:00-17:10 事例報告：「ラーニング・コモンズの取り組み」 弘前大学</p>

	<p>福島大学 東北大学 宮城教育大学</p> <p>17:10-17:15 挨拶 国立大学図書館協会 東北地区協会幹事館</p> <p>17:15 閉会</p> <p>17:15-17:45 会場図書館 見学 *任意参加</p> <p>講演1では、著作権の専門家をお招きして大学図書館における著作物の取扱い、権利と保護、特に複写の特殊性について詳しく学ぶことができた。</p> <p>講演2では、大学図書館を取り巻く現状や教育・研究に深く関与する図書館の機能役割について、従来の大学図書館の意識だけではなく利用者の目線に立った図書館改革とこれからの図書館のありかたについて学ぶことができた。</p> <p>事例報告では、現在の図書館に求められているアクティブラーニングの場としてのラーニング・コモンズの整備状況について、改修を行った図書館を中心として報告が行われ、いずれの図書館も本の貸借から学修の場としての機能が徐々に充実しており、今後の大学図書館のあり方について学ぶことができた。</p>
<p>事業の成果 (アンケート調査結果、事業への意見・感想等)</p>	<p>今年度は、企画方法の見直しが必要と考えテーマについては、課長職クラスが提案し、実施した(平成26年まで図書館職員の企画スタッフを各館から募集・実施していた)。</p> <p>アンケート結果を見ると、「研修で新しい知識や技能を獲得することができたか」では講演1ではできた・ある程度できた 85%、講演2では 95%、事例報告では 93%であった。「研修で新しい知識や技能を研修の意義を感じたか」については講演1では感じた・ある程度感じたが 87%、講演2では 95%、事例報告では 93%と好評であった。</p> <p>内容についての自由記述では、講演1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・著作権法において、大学図書館、公共図書館で「できる」ことを再学習することができ、自分にとって有意義な講演とすることができた・今まで、うやむやであった事項等が、①例えば「半分まではコピー可能」であるとか、図書館側がサービスの判断をする②「やらなければならない」ではない、等々、納得できました。 <p>等の評価の一方</p>

・受講済の「著作権実務講習」の内容と、ほぼ同じもので期待していたものではなかった。大学図書館の現状や、よく問題になっている具体的事例について詳しく教えていただき良かった。

との意見も見られた。

講演 2

・非常に興味深かった話（内容）でした。図書館の改革についての過程が分かりやすく是非真似できることは取り入れたいと感じました。

・館長の強いリーダーシップで大きく変わることが分かり、うらやましいと思いました。今後の活やくにも期待したいです。

・実践事例豊富な内容で、学内連携など、ぜひ参考にさせて頂きたく思いました。ありがとうございました。

と高い評価が得られた。

事例報告

・各大学の取り組みは本学のラーニング・コモンズでも参考にできるものが多かった。

・各大学の取組みを参考に、オリジナリティあるラーニング・コモンズを模さくしていきたい。

等の意見が見られた。

研修全体

・とても充実した研修内容でした。

・内容の濃い研修でした。当館でも活かしていければと思いました。

・いい刺激を受けました。

との好評価の反面運営方法への意見も見られた。

・タイムキープをもう少しうまくおこなってほしい。コモンズの取り組みプレゼンテーションのデータを参加大学に配信していただきたい。

今後取り上げるべきテーマや講演者については

・IRについて、デジタル化資料の活用について、オープンアクセスについて、目録のより専門的な研修

・図書館の国際化について

・大学図書館職員のあり方、必要なスキルなどテーマに研修したいです。

があり、今後図書館として取り組む課題等の提言もあった。

経費	支出総額： 111,338 円 【内訳】 講師謝金・交通費： 110,720 円 その他（会議費等）： 618 円
----	--